

## 防災学習の取り組み

和歌山県田辺市田辺第二小学校 中田 詩子

### 1. 本校の概要

- ・和歌山県南部にあり、校区は太平洋に面している。
- ・全校児童 466名
- ・昨年末新校舎完成し、田辺市地震津波避難ビルに指定（3階屋上19m）

### 2. 地震・大津波に関する防災・安全教育計画

（6月、12月、2月を防災・安全教育強化月間とする。）

月	内 容
6月	○防災学習の授業参観（全学年）…和歌山県津波防災指導の手引きを中心に ○地震・津波合同避難訓練…地域高台への避難 ○校舎屋上への避難
7, 8月	○校区内避難場所現地研修（19ヶ所）（職員）
11月	○防災学習の授業参観（5年） ○地震・津波合同避難訓練…地域高台への避難 ○登下校避難経路・避難場所確認
2月	○地震・津波合同避難訓練（11町内会とも合同避難訓練） …地域高台への避難

※合同避難訓練：田辺市街 東・南部地区保育所、幼稚園、小・中・専門学校との避難訓練）

### 3. 登下校避難学習の取り組みについて

#### ◎校区内避難場所職員研修(夏休み中3回)

○校区を3地域に分け、それぞれにある津波避難場所・津波避難ビルに行き、位置や登り口、経路等を確認した。

○校区の全ての避難場所や避難ビルに、実際に足を運んで確かめることはできていなかった。今回、現地研修をすることで、新たにいくつかの避難経路や避難ビルの外階段を確認でき、また、神社裏の2か所の高台が続いていることもわかり、現地研修の重要性を実感した。同時に、児童にも避難経路を歩かせ、避難場所・ビルを教えることが必要だと感じた。



#### ◎登下校中の避難学習

◇日時 平成26年11月16日(日) 13:30～  
日曜参観日 校内音楽会後

◇ねらい

登下校中に大地震が発生したり、津波警報が発令されたりした場合、周囲の状況判断をし、身の安全を守れるようにする。

◇内容

①大地震発生とともに通学路で見られる危険とそれらから身を守る方法を知る。(全校学習)  
・ブロック塀・自動販売機・看板・崖…

②通学路にある避難場所を知る。  
・地図と写真で避難場所・ビルの把握(全体学習)

③危険場所、避難場所・避難ビルを確認しながら、集団下校する。

◎下校途中で考えさせる

「もし、ここで大地震が起きたら(大津波警報が発令されたら)」

ア. ブロック塀や看板などの近くで「気をつけることは何か」

イ. 通学路の分岐点で

「どこへ避難すればよいか」

◇その他

保護者の参加も呼びかける。

◇成果と改善点

○保護者も全体学習から参加し、危険な場所などを確認しながら、一緒に帰ってくれた。

○実際に現地を確認することは効果的である。(特に低学年児童には)

○同じ地区に住む子どもたちが、立ち止まり、一緒に危険なものを考えながら帰ることができてよかった。

○自分が住んでる地区ではない避難場所は、あまりわかっていないように感じる。今後全ての子どもが、校区内と周辺の避難場所を知っている状況にする必要がある。

・低・中学年の校区探検の学習時に、避難場所の確認を組み入れる学習計画を立てる。

・保護者・地域住民と連携を図り、全校で校区内の避難場所や、地震や気象災害時の危険箇所などを確認する活動を位置づけるなどの工夫が重要である。

